

○下水道ビジョン パブリックコメント回答案

番号	ページ	意 見	対 応
全般		文中では和暦年度、グラフでは西暦年度を使用しているが、統一すべき。今年、改元が実施されることから、文中も既往は2017年度（平成29年度）と2重表記とし、向後は西暦年度を用いることとしてはどうか。	原則、和暦表示としていますが、グラフについては将来にわたるものが多く、改元後はわかりにくくなることが予想されるため、西暦表示としています。
全般		合流式を分流式へ変更して欲しい。また臭い対策をして欲しい。	臭気の問題については定期的な清掃に加え、必要に応じて緊急清掃等で対応します。分流式への変更については、追加の污水管を新たに整備する必要があり、また宅内排水設備の全てを変更する必要があるため、市だけでなく個人負担も莫大になります。そのため慎重に判断する必要があることから、本ビジョンにおける将来推計には含んでおりません。
全般		浄化槽の管理を個人まかせにするのではなく、公共下水道と同様、市が行うべきである。	合併浄化槽については、市長部局が所管となっておりますので、市政に関するご意見として情報提供します。
全般		下水道整備区域から外れている地域については、公共下水道・農業集落排水等の水環境の改善を行うこと。	下水道区域を見直しを行うことで、市全体として早期に水環境の改善に寄与できると考えています。 なお、下水道区域外については、市長部局の施策として、合併浄化槽の設置及び維持管理費の補助金制度もあります。
全般		宅内排水について、補助を行うこと。	現在も水洗化助成金制度があります。
1-1	3	アセットマネジメント計画と経営戦略はビジョンと表裏一体の関係にあり、それを「関連」と位置付けるのはいかがなものか。市の上位計画との位置付けを「調和」とし、アセットマネジメント計画との関係については上下に矢印を振り、「整合」とするほうがいいのではないか。また、県計画も国と同様に準拠すべき性格ではないのか。加えて、経営戦略についてはビジョンのアクションプラン（下位計画）として位置づけるべきではないのか	ビジョンは下水道事業にとっての最上位の基本計画であるため、アセットマネジメント計画や経営戦略は、ビジョンを受けて策定するものであり、「関連」と位置づけることに問題はないと考えています。

番号	ページ	意 見	対 応
2-1	6	沿革に「また」以降の記載は似つかわしくない	沿革ではこれまで実施したこと、「また」以降で現在実施していることを記載しています。
2-2	7	汚水のみ処理計画諸元を内容とする表と文中の記載が整合していない。記載する必要があるのか疑問。敢えて記載するのであれば、第3章現状と課題の前振りのほうが相応しくないか。	計画緒元は下水道計画の根拠となる数値を示すものであるため、本章で記載しています。
2-3	10	汚水と農業集落排水施設に事業計画区域面積を記載し、雨水の書きぶりを統一されたい。概要に「. 整備を進めています」は不要。	以下のとおり修正します。また、概要に「…を進めています」は不要とありますが、下水道施設の現在の状況を記載しており、必要と考えています。 6行目 【修正前】 雨水は、約2,357.5haの事業計画区域を対象として、雨水幹線や. . . . 【修正後】 雨水は、事業計画区域を定め、雨水幹線や. . . .
2-4	11	ポンプ場の表がP22とP31にも掲載されている。P22の表をベースに経過年数を加筆し、ここにもってきてあとは省略すればどうか	22ページは耐震化の観点から、31ページは維持管理の観点から記載しています。
2-5	14	計画処理面積の全体計画と事業計画の関係、計画処理人口と事業計画の人口、計画処理能力と事業計画の処理能力の差異について説明がないとわからない。現状を記載する上で必要のない数字については省略してはどうか。	ご指摘の通り、括弧書きの事業計画の数値は必要ないと判断し削除します。また、以下の点についても同様の理由で修正します。 【修正前】○計画処理面積：全体計画6,971ha 【修正後】○計画処理面積：6,971ha

番号	ページ	意 見	対 応
3-1	15	「市街化調整区域の一部に下水道の未整備区域があり、平成37年度の概成に向け.」とあるが、これでは市街化調整区域内の未整備区域全域を平成37年度までに概成するとも読める。もう少し丁寧に、平成26年度における公共下水道整備区域の見直しの内容も含め記載すべきではないか。（同ページの下6以降をここに移行させるのも一考）	以下のとおり修正します。 3行目 【修正前】 市街化調整区域の一部に下水道の未整備区域があり、平成37年度の概成. . . 【修正後】 市街化調整区域においても、公共下水道整備区域を定め、下水道の普及を進めていますが、未だ整備ができていない区域が残されていることから、平成37年度の概成. . . 15行目 【修正前】 下水道整備を予定していた市街化調整区域の. . . 【修正後】 平成26年度に下水道整備を予定していた市街化調整区域の. . .
3-2	15	分母を明示する必要がある。	脚注に以下の算出式を記載します。 市街化調整区域における処理区域内人口／市街化調整区域の行政人口
3-3	15	加古川市一般廃棄物処理基本計画による、平成28年度末の生活排水処理の処理方法別の内訳をみると、下水道86.2%、農業集落排水処理0.6%、合併処理浄化槽3.4%合計で90.2%となっている。1年間で4.6%も伸びたということですか。	算出方法が異なります。 一般廃棄物処理基本計画：水洗化人口／行政人口 下水道ビジョン：処理区域内人口／行政人口
3-4	21	水質監視は兵庫県のみでなく、加古川市でも行っている。「インターネット上で」は不要（紙ベースでも公表している）	周知の媒体のひとつとして記載しています。以下のとおり修正します。 2行目 【修正前】 インターネット上で. . . 【修正後】 インターネット等で. . .
3-5	21	平成30年度の環境の概要では、公共用水域及び地下水の水質達成状況について、生活環境項目で91.2%、有害物質項目で99.1%であることから、「加古川下流水域は『概ね』良好な水質」としたほうがよいのではないか。	いずれの観測点も環境基準値を下回っているため、「良好な水質となっています。」と表現しています。

番号	ページ	意 見	対 応
3-6	23	言葉の重複が鬱陶しい→「また、管渠については耐震性の向上を図るため、老朽化や損傷した箇所を中心に更生工事を行っています。」	以下のとおり修正します。 4行目 【修正前】 管渠については、更生工事によって耐震性が向上するため、老朽化や損傷した箇所を中心に更生工事を行っています。 【修正後】 管渠については、老朽化や損傷した箇所を中心に更生工事を行い、同時に耐震性の向上を図っています。
3-7	23	管渠の耐震化率は算出できないのですか	全国統一の算出基準がないため、ビジョンには掲載していません。
3-8	25	1回／7年の想定確率である最大降雨量44mm／Hを超える時間数の年度推移や最大連続降水量があれば、雨水計画規模の見直し等に有益ではないか	それらのデータについては、ご提案いただきましたとおり、雨水計画の見直しに活用しています。
3-9	30	年次的に→（毎年度計画を定め、）定期的に	以下のとおり修正します。 6行目 【修正前】年次的に 【修正後】定期的に
3-10	30	降雨が少ない冬季に主要な雨水幹線を清掃し、次年度の降雨に備えています。	以下のとおり修正します。 8行目 【修正前】次年度の降雨に備えています。 【修正後】次年度に備えています。
3-11	30	図3.8は P11と重複しているし、特に必要ないので削除してはどうか。	適正な維持管理のうち管渠の説明のため、不要ではないと考えています。

番号	ページ	意見	対応
3-12	31	これまでも計画的に清掃や点検を行っているのだから、例えば「老朽化が進行することから、定期的な清掃や点検の頻度を見直す（ことを検討する）必要があります。」とでもすればどうか。	以下のとおり修正します。 課題 【修正前】 進行することから、計画的に清掃や点検を行う必要があります。 【修正後】 進行することから、的確に劣化状況の把握に努める必要があります。
3-13	32	「年間30～40億円の事業費が10年以上必要」とあるが、図3.11から直感的に読み取りにくい。図に30億円のラインに補助線を引くか、現在の建設改良費が15～17億円前後なのだから、文章表現を20億円以上とするかを検討すべき。いずれにしても40億円を超える年度があることから「～40億」の記述は不要。また、50年スパンの話であれば、それ以降のグラフは不要である。	以下のとおり修正します。なお、50年目以降については、図3.10とも関連するため、100年後まで記載しています。 10行目 【修正前】 30億円～40億円の事業費が10年以上必要となるため 【修正後】 最大40億円以上の事業費が生じることがあるため
3-14	32	「年間30～40億円の事業費が10年以上必要」だからといって、財政面・体制面から「非現実的」と言い切るのはいかがなものか。→「財政的に非常な困難を伴います」	以下のとおり修正します。 10行目 【修正前】 財政面・体制面から非現実的である 【修正後】 財政面・体制面で非常に困難である
3-15	33	緊急度の定義は次ページにあるので、この囲み記事と次ページの図は逆のほうがいいのではないか。	33ページと34ページを入れ替えます。
3-16	34	P10によると、コンクリート管と陶管の合計は33.6Kmであるのに、図の延長距離は39.0Km程度となっている	分流汚水と合流のコンクリート管、陶管及びその他の合計になっており、雨水の管渠は除いています。
3-17	35	標準耐用年数と目標耐用年数の定義や考え方を注記する必要がある。	脚注に記載します。

番号	ページ	意 見	対 応
3-18	36	標準耐用年数未満であっても健全度が低下する設備等が存在することは理解するが、標準耐用年数で改築するのに、なぜ当該標準耐用年数を超えている区分Ⅲや区分Ⅳが出現するのかわからない。	標準耐用年数を超過した翌年度に更新を行うため、1年は区分Ⅲ、Ⅳが発生します。
3-19	37	本文中に現行下水道ビジョン期間中に実施した改築等を記載してはどうか	第2章「下水道事業の沿革」に主な更新工事を記載しています。
3-20	37	リスクと対策に必要な事業量とのバランスを図って策定したのがストックマネジメント計画ではないのか。→リスクとその対策に必要な事業量（費用）を勘案し策定したストックマネジメント計画に基づき管渠やポンプ場の改築更新を進める必要があります。	以下のとおり修正します。 課題 【修正前】 リスクと対策に必要な事業量（費用）とのバランスを図りながら、管渠やポンプ場のストックマネジメント計画を実践する必要があります。 【修正後】 リスクとその対策に必要な事業量（費用）を勘案し策定したストックマネジメント計画に基づき、管渠やポンプ場の改築更新を進める必要があります。
3-21	38	この原則を明確化するためにもセグメントを設けて決算すべきである	内部で検討しています。
3-22	38	経理方式を官庁会計方式から企業会計方式に移行し、経営状況等が容易に把握できるようになったからといって経営基盤が強化されたとは言えない。	移行そのものが経営基盤の強化にはつながりませんが、より経営状況の分析が可能になるため、経営基盤の強化につなげたいと考えています。
3-23	38	欄外の注記では、経営分析指標を安定性、収益性、生産性などに関する指標と説明しておきながら表では効率性と健全性の指標を示しているのは平仄が合わない。安定性等についても労を厭わず代表的指標をおのおの1～2掲載すればどうか	以下のとおり修正します。 脚注 【修正前】企業の安定性、収益性、生産性などに関する指標で・・・ 【修正後】経営の効率性や財政状況の健全性などに関する指標で・・・

番号	ページ	意 見	対 応
3-24	38	28年度の決算審査意見書と使用料単価、汚水処理原価、総収支比率、経常収支比率の各数値が異なっているのはなぜなのか	本ビジョンの値は、他市と比較するため、公共下水道事業や農業集落排水事業等を区別した「経営比較分析表」のうち、公共下水道事業の値を記載しています。一方、決算審査意見書は下水道会計全体の値となっているため、これらの値は異なります。
3-25	38	経営規模が大きく異なっている県内各事業者と、順位と平均値をもって比較することに意味があるのか疑問である。それよりも、同一経営規模の類似団体との比較のほうが適切であると考えます。	経営規模だけではなく普及した年度等によっても経営状況は大きく異なります。いずれにしても一律の比較が難しいことから県内で比較しております。 なお、経営規模の観点から、町は比較から外しています。
3-26	38	紙幅は増すが、各指標について経年変化を掲載されたい。	紙面の都合上、省略しています。なお、経年変化についてはホームページに経営比較分析表等を記載していますのでご覧ください。
3-27	43	現行下水道料金の適用年度を記載したほうが良いと思います。また、最左欄の見出しが汚水の種別なのだから、表側は一般、公衆浴場とすべき。加えて、公衆浴場欄に「1m ³ につき」が記載漏れ	適用年月日（平成16年4月1日）を追加します。また記載漏れの「1m ³ につき」を記載します。
3-28	43	併せて、受益者負担金についても記載すべき	下水道使用料の項目であるため、受益者負担金については記載しておりません。
3-29	44	経費回収率等が平均値よりも良好であるからといって、適正な使用料単価で経営を行っているとは必ずしもいえない。→水道ビジョンの当該項目と同一の記載でいいのではないか	以下のとおり修正します。 これまでの取り組み 【修正前】 経営面では、汚水処理原価及び経費回収率がともに平均値より良好であり、適正な使用料単価で経営を行っていることがわかります。 【修正後】 経営面では、経費回収率が100%を上回っており、良好な経営ができています。

番号	ページ	意 見	対 応
3-30	45	「アセットマネジメント計画を策定しました」とあるが、おそらくこのプランと並行して策定中であるので、パブコメ実施時点では未策定であると好意的には解釈するが、その旨を記載いただきたい。	ビジョンとして策定する時点ではアセットマネジメント計画は策定済のため、本文中には記載していません。
3-31	45	中長期的視点に立つ「アセットマネジメント計画」を先行して策定した後に、その中で、向後10年間の方向性等を定める下水道ビジョンを策定するほうが素直でなかったのか。	ビジョン策定にあたっては、アセットマネジメント計画の内容を反映させており、並行して策定することに問題はないと考えています。
3-32	45	図3.15はアセットマネジメント計画に基づき作成した図なのですか？前提条件を記載願いたい。	アセットマネジメント計画でも使用した推計値の図となっています。前提条件については、第4章「将来の事業環境」を基に推計したものになります。なお、現行どおりの記載でも誤解が生じないと考えています。
3-33	46	P32でストックマネジメントと関連づけてアセットマネジメントの説明をしているのだから、図3.16は不要ではないのか。ただ、①文中では「カネ」と「モノ」（との関係）が記載されているが、「ヒト」への言及がない。②投資計画、更新計画と資金確保計画との関係は？、③更新時期の検討等はストックマネジメントとして記述すべき④概念図中の機能診断等とは資産の健全度のみ？重要度や優先度は？⑤経営戦略との関係は？	イメージしやすいよう概念図として記載しています。また、①～⑤は以下のとおりです。 ①「人材の育成・確保」として記載しています。 ②アセットマネジメント計画の中で整合が取れるよう位置づけています。 ③本文を修正します。 5行目 【修正前】 更新時期を検討した上で、更新需要の見通しや財政収支見通しを・・・ 【修正後】 更新時期をストックマネジメント計画で検討した上で、財政収支見通しを・・・ ④更新時期は、重要度・優先度等を基にしています。 ⑤アセットマネジメント計画を基に、経営戦略を策定しています。
4-1	53	将来の事業環境というくくりで、有収水量の動向、更新需要の推移について記載しているが、これらについては、第3章-3-②「将来を見据えた経営」の振りとして整理すればどうか。あるいは当該節を第5章に移行させることも考えられるのではないか。いずれにしても、課題についてはまとめて記載すればどうか。加えて、職員の動向についてはP47の人材の育成確保と重複しているので、表を含め全て前にもっていけばどうか。	第3章「現状と課題」で過去と現在の分析を行い、第4章「将来の事業環境」の検討を行ったうえで、第5章「これからの下水道事業」につなげていくように策定しております。

番号	ページ	意 見	対 応
4-2	55	総資産額の算定時点を明記されたい。また、雨水と汚水のセグメントごとの資産総額を明示するほうがいいのではないか。	算定時期を追加します。なお、セグメントについては、検討しています。
5-1	59	①将来像（基本理念）が、本文中でも「基本理念として掲げ．．．．．」、P62、P87でも単に基本理念となっている。②P60では「方針」であるが、P63、P68、P79では「基本方針」として説明されている。③P62、P87では「目標」とあるが、P89では「施策目標」となっている。「基本理念」－「基本方針」－「施策目標」－「推進施策」に統一すればどうか。（将来「像」とは、将来のある1点における姿を現す意味合いが強く、「つなぐ」といった流れを表す用語とは相容れないと思料する。）	以下のとおり修正します。 表題 【修正前】1. 将来像 【修正後】1. 基本理念 図 【修正前】〔加古川市下水道事業の将来像（基本理念）〕 【修正後】〔基本理念〕
5-2	63 68 79		以下のとおり修正します。 【修正前】 四角囲み<基本理念>快適な生活環境を．．． 【修正後】 四角囲み無し 快適な生活環境を．．．
5-3	89		以下のとおり修正します。 表7.1題名 【修正前】 施策目標 【修正後】 目標
5-4	60	国の新下水道ビジョンを参酌することは当然ではあるが、国が言う下水道事業の重点施策「に沿って」市ビジョンの方針を定めると見えるのはいただけない。P59で加古川市水道事業の将来像（基本理念）を高らかに謳ったのだから、当該将来像から3つのキーワード・方針を演繹する記載に改めるべきである。	国のビジョンが掲げる3つの理想像は本市の下水道事業が進むべき方向性と合致しております。
5-5	61	「下水道未整備区域が残されており」→「下水道整備計画区域内に未整備区域が残されており」とするほうがいらぬ誤解を生まなくていいのではないか	以下のとおり修正します。 5行目 【修正前】 下水道未整備区域が残され．．． 【修正後】 公共下水道整備計画区域内に未整備区域が残され．．．

番号	ページ	意見	対応
6-1	63	PPPによる整備については30年度中に契約を締結するのだから、「実施します。」でいいのでは。	以下のとおり修正します。 18行目 【修正前】実施する予定です。 【修正後】実施します。
6-2	65	30年度末には青色の前期整備部分は、積み残しを除いて灰色（整備済み）の表示になるはずですね	その通りです。
6-3	66	事務事業評価シートに依れば、当該制度の利用者はH27:4件、H28:0件、H29:1件と活用されているとは言い難い。制度を存続させるとしても融資条件の見直し等検討すべきでないのか。	融資条件等については引き続き検討していきます。
6-4	66	P20では「特に高齢者の単身世帯では、水洗化の費用負担が未接続の理由」が課題として捉えられているが、ならば、当該高齢者を対象とした施策、例えばリバースモーゲージ制度の活用、住宅改造費助成事業の市単での拡充等、を検討すべきでないのか	高齢者世帯については水洗化助成金を一般世帯より上乘せ補助を行っているところですが、ご提案いただいた内容については今後の参考にさせていただきます。
6-5	66	監視体制の現況について、P21に記載しないと平仄が合わない	以下のとおり修正します。 21ページ 4行目 【修正前】 良好な水質となっています。 【修正後】 良好な水質となっています。また、工場などの特定事業場からの排水については、条例で排水水質基準を定め、水質検査を実施しています。
6-6	66	特定事業場への監視体制を「どのように」充実する予定なのですか	以下のとおり修正します。 9行目 【修正前】特定事業場への監視体制の充実に努めます。 【修正後】引き続き適切な監視に努めます。

番号	ページ	意 見	対 応
6-7	69	P28の課題にもあるように「市街化区域における雨水の流入量の増加」や昨今の異常気象に万全の対応を図るため、雨水幹線の新設やポンプの増設等現行の事業計画を改定する可能性について言及したほうがいいのではないか。	以下のとおり修正します。 9行目 【修正前】 図っていきます。 【修正後】 図るなど、状況に応じた効果的な対策を推進していきます。
6-8	69	雨水整備を早期に進めて欲しい。	69ページのとおり、「ためる」・「そなえる」・「ながす」の3つの観点から総合治水対策を推進していきます。
6-9	69	ハザードマップの危険推移を各町内会のメイン電柱に表示して欲しい。	ハザードマップについては、市長部局が所管となっていますので、市政に関するご意見として情報提供します。
6-10	72	今後10年で整備率を6%増加させる計画であるが、このペースで行くと整備完了まで60年必要である。「ためる」「そなえる」ももちろん大切であるが、量的にも最大の「ながす」取り組みについて、市民の安全を守る観点から、「雨水公費」の原則のもと、一般会計からの繰り入れを増加させ整備を加速化することはできないのか。	被害の発生件数や規模に応じて、優先的に着手し、早期に効果発現するよう計画的に事業を進めて対応しています。整備の加速化の可否については、他事業とのバランスや市長部局との協議で決定します。
6-11	75	国語辞書的な用法でいえば、健全率とはリスク（不具合）の発生確率を表し、このグラフではあくまで相対的ではあるが健全率区分Ⅰ<Ⅱ<Ⅲ<Ⅳの順にリスク発生の確率が高くなることを表しているものと考えられる。であるとすれば、図6. 8において、健全率Ⅳにおいても通常考え得るかつ軽微なリスクは存在するものの、回復不可能な重大なリスクは発生しないレベルであることを説明しなければ、「老朽化に伴うリスクは悪化しない」ことの証明とはならないのではないかと。いずれにしろ、標準耐用年数、目標耐用年数、健全率の定義を記載願いたい。	35ページの脚注に用語説明を入れてあります。
6-12	79	「下水道事業は、お客様からの下水道使用料で成り立っており」は汚水についてのみいえることであり、健全な経営という観点からは雨水に係る一般会計からの適正な繰り入れについても言及すべきである。	雨水にかかる一般会計負担金は全額繰入のため、収支に影響を及ぼさないため、わかりやすいように省略しています。

番号	ページ	意 見	対 応
6-13	79	アセットマネジメント（計画）が「下水道資産全体のデータを整理し、重要度や優先度に応じた更新時期をを検討したうえで、更新需要の見通しや財政収支見通しを反映させて」策定（P46）するのであれば、P85の図の提示のみでは不十分であり、もう一方の柱である財政収支見通し（収益的収支及び資本収支、企業債残高）についても提示すべきである。	財政収支は経済状況等により変わるため、本ビジョンには掲載していません。なお、10年間の財政収支である経営戦略は修正を行えば、その都度ホームページ等で公表します。
6-14	79	おそらく、平成30年度に策定した同計画における上述の内容については、複数のシミュレートのうち最も適するパターンを選択することとなっていると思われるが、当該最適パターンを再掲することとしてはどうか。	本ビジョンは最適パターンを採用した計画となっています。
6-15	79	「定期的な見直しを行い」→「アセットマネジメント計画との整合を図るため、可及的速やかに改定するとともに、その後も定期的な見直しを行い」	本ビジョンとアセットマネジメント計画策定及び改定に合わせ、経営戦略は早期に見直しを行います。また、定期的な見直しも行いますが表現については現行のままとします。
6-16	79	アセットマネジメントを実行性のあるものにしていくことが重要である。	ご指摘のとおりと考えています。
6-17	80	浸水対策に毎年度7.6億円（19-7.3-4.1）を一般会計が負担することとなっているが、ポンプ場のうち雨水ポンプ場の改修については当該浸水対策費用とは別に一般会計が上乗せして負担する計画であると解してよいか	雨水ポンプ場の改修費用はポンプ場（4.1億円）に含まれていません。雨水ポンプ場改修費用の財源は一般会計からの繰入となります。
6-18	81	近隣市町との水平連携のみでなく、特に人材交流という観点からは県との垂直連携についても触れておくべきではないか。	以下のとおり修正します。 7行目 【修正前】他市町との広域連携の可能性に・・・ 【修正後】他市町や県との広域連携の可能性に・・・

番号	ページ	意見	対応
6-19	81	将来おそらく必要となる下水道料金の改定について市民の納得を得るためにも「汚水私費、雨水公費」の原則をもって下水道事業が運営されていることを示すセグメントの設定が必要である。	汚水・雨水のセグメントについては、内部で検討しています。
6-20	81	受益者負担金についても記すべきである。また、現状と課題の章において未収金の状況を記載してツラ合わせをしておくべきである。	以下のとおり修正します。 18行目 【修正前】下水道使用料の未収金 【修正後】下水道使用料等の未収金
6-21	82	(現状分析のほうで記載すべきかもしれないが、)技術職員を大括りにして検討するのではなく、土木、電気、機械、化学等専門分野別の年齢構成を把握・分析し、アセットマネジメント計画を遂行する上で必要な人員を確保するため、市長部局と一体となって当該専門分野ごとの長期的な採用計画を策定することを施策とし、その旨を記載すべきである。	技術職員の採用については市全体で採用計画を立てているため、本ビジョンでの記載は見送っています。
6-22	83	料金水準と投資規模の関連を表す「企業債残高対事業規模給水収益比率」を加えるべきである。	「持続可能な経営」に相応しい代表的な指標のみ目標値としています。なお、ホームページにおいては、他市町とも比較が可能な経営比較分析表を記載しており、同様の指標を掲載しています。
6-23	85	安全性の阻害時や災害時における情報提供を適切に行い、市民に正しく理解していただくためには、平時からのリスクコミュニケーションが重要であるということが認識できる表現にしてはどうか	ご指摘にあるような内容については、今後の広報誌等で情報発信していきます。
6-24	85	せっかく「かこ水だより」第1号を発行したのに、アンケート用紙が添付されていないのは惜しい!	アンケートは目標にも掲げているとおり定期的 to 実施します。
6-25	85	マンホールカードの作成等市民が興味を引くような取り組みを進めていただきたい	内部で検討しています。

番号	ページ	意 見	対 応
7-1	87	官公庁におけるPDCAサイクルの課題は、Plan（N-1年度に策定）→Do（N年度に実施）→Check（N年度にN-1年度を評価）→Action&Plan（N年度にN+1年度の予算、方針を策定）→Do（N+1年度に実施）と、N+1年度のDoがN年度ではなくN-1年度の評価に基づかざるを得ない仕組みとなっており、即応性に欠けることである。このため、特に上下水道運営審議会において、当該年度の（中間）事業評価を次年度予算編成時前に行うことができるような仕組みづくりが必要である。	今後のビジョン実現に向けた取り組みの参考とさせていただきます。
7-2	87	中間評価は数値目標のみを行うのではなく、ビジョン記載の全ての項目について行うべきである。	設定した目標値の評価を通して、ビジョン全体の進捗等について確認できると考えています。
7-3	87	具体的な指標については、随時、事業の進捗や評価を行いながら着実に事業を進めていただきたい。	PDCAサイクルを回し、事業の進行管理を行っていきます。